二〇一五年六月二三日（京都平安神宮 参加者九名）

東山望む神苑緑さす　わかば
蓮池のしがらみに鯉重なりて　わかば
遣水の流れに沿ひて濃紫陽花　わかば
神苑を巡る小流れ河鹿鳴く　わかば
京なれや清水焼に氷菓盛る　菜々
曲水へこぼれて紅し苑の萩　菜々
一座二座三座と広げひつじ草　菜々
しがらみを越ゆる水音の涼しさよ　菜々
木道のあらぬ辺にでし梅雨茸　明日香
遣り水の右に左に濃紫陽花　明日香
神苑の箒目の径風涼し　明日香
まず茅の輪くぐり神苑吟行す　満天
万緑に仁王立つごと大鳥居　満天
一服の涼橋殿に風通ふ　ひかり
神苑の緑陰拾ひ吟行す　ひかり
池心なる石は鶴亀新樹光　つくし
閉ざされし茶室への径五月闇　つくし
緑さす休み処の野点傘　こすもす
繋がれし古き小舟や池涼し　こすもす
木洩れ日の斑に紛らわし半夏生　せいじ

吟行句会みのる選

二〇一五年六月二三日（京都平安神宮 参加者九名）